

(別紙)

成果の説明書

(氏名)土谷 岳史	(学部)経済
<p>1 重要事項</p> <p>①論文『『ノマド』という罪：EU シティズンシップのポリシング』『高崎経済大学論集』第 56 巻第 4 号の作成</p> <p>本稿の下となった報告原稿は 2011 年 2 月のものである。3.11 を経て科学技術社会論や水俣学の学習の必要を感じ、それを優先したために論文化が先延ばしになっていたが、報告以降に発表された研究を反映させて、論文として完成させた。</p> <p>本稿は EU においてロマと呼ばれるマイノリティがどのような立場に置かれているのかを検討したものである。長い間差別されてきたロマは EU という権利保護的とされる政体のなかでも差別から十分に守られておらず、むしろ近年の EU の政策展開はロマの差別を助長しかねないことを指摘した。</p> <p>②講義「ヨーロッパ政治論」の内容改定</p> <p>昨年度までの本講義では EU のデモクラシー理論を取り上げて、EU とはなにかについて検討してきた。本年は視角を変え、政治を分析する方法について検討し、それを踏まえて EU とはなにか、を考えてみた。政治学は客観科学であることが不可能なものであり、分析それ自体が政治的な含意をもつものであるというのが本講義の立場である。この立場は上記①の論文でも表明されている。2014 年度は方法論の部分をより洗練させ、ポスト実証主義と呼ばれる様々な立場の違いを考えてみたい。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>本年度もレポート試験や卒業論文の作成指導などを通じて学生の能力を向上させようと努めてきた。とくにゼミではレポート作成⇒添削⇒修正というプロセスを通じて学生の能力を高めることを目指している。2014 年度以降も継続して取り組むことで、学生が能動的に疑問を持ち、調べ、思考することができる市民となる助けとなりたい。</p>	